

令和6年度
発生予察情報

発生予報第1号（概要版）

令和6年4月19日発行
宮城県病害虫防除所
(TEL:022-275-8982)

作物名	病害虫名	発生予報	備考
水稲	イネドロオイムシ	発生量: 平年並	
	イネミズゾウムシ	発生量: やや少	
	ヒメビウンカ	発生量: 少	
	ツマグロヨコバイ	発生量: やや少	
麦類	オオムギ赤かび病	発生時期: 早い 発生量: 平年並	
	コムギ赤かび病	発生時期: やや早い 発生量: 平年並	
りんご	斑点落葉病	発生時期: 早い 発生量: やや多	
	りんごハダニ	発生量: 平年並	
なし	黒星病	発生時期: 早い 発生量: 平年並	
うめ	かいよう病	発生量: 平年並	
	黒星病	発生量: やや多	
冬春きゅうり	うどんこ病	発生量: 平年並	
	べと病	発生量: 平年並	
	アブラムシ類	発生量: 平年並	

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第2号の発行日は5月27日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ
トップページ 登録フォーム

令和6年度 発生予察情報	発生予報第1号-水稲-	令和6年4月19日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	--------------------	--------------------------

—初期害虫の発生予報と防除のポイント—

巡回調査 : 4月 11～15 日

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
イネドロオウムシ	—	平年並

予報の根拠

(1) 前年の発生量が平年並であったことから、越冬密度は平年並と推測される。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
イネミズゾウムシ	—	やや少

予報の根拠

(1) 前年の発生量がやや少なかったことから、越冬密度はやや少ないと推測される。(/ -)

病害虫名	発生時期	発生量
ヒメビウンカ	—	少

予報の根拠

(1) 畦畔のすくい取り調査の結果、発生地点率は平年より低く、すくい取り虫数は平年より少なかった。(/ -)

病害虫名	発生時期	発生量
ツマグロヨコバイ	—	やや少

予報の根拠

(1) 畦畔のすくい取り調査の結果、発生地点率は平年並であったが、すくい取り虫数は平年よりやや少なかった。(/ -)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・昨年発生が多く見られたほ場では、それぞれに登録のある箱施用剤を施用する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2) イネドロオウムシ・イネミズゾウムシ

- ・イネドロオウムシについて、県内の一部地域でチアメキサムに対する薬剤感受性低下が確認されている。過去に本成分を含む箱施用剤を使用しても発生が多く確認されたほ場では、別系統の箱施用剤を使用する。

※普及に移す技術 第94号 参考資料6 「水稲のイネドロオウムシに対する殺虫成分チアメキサムの薬剤感受性低下」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735193.pdf>

・イネドロオウムシ、イネミズゾウムシについては、移植直後の加害が多いと、分けつが抑えられ減収する恐れがあるため、侵入盛期(表1)近くに移植する場合は発生に注意する。また、要防除密度に達したら直ちに防除を実施する。

表1 対象害虫の侵入盛期(平年)と要防除密度

害虫名	平年の侵入盛期	要防除密度
イネミズゾウムシ	5月第6半旬 (5月 26～31 日)	侵入盛期の成虫密度(畦畔際2m程度):100 株当たり 140 頭 ※晩期栽培の場合は 70 頭
イネドロオウムシ	6月第1半旬 (6月 1～5 日)	侵入盛期の成虫密度:100 株当たり 25 頭 産卵盛期(平年:6月 6～10 日)の卵塊密度:100 株当たり 80 個

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和6年度 発生予察情報	発生予報第1号-麦類-	令和6年4月19日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	--------------------	--------------------------

-5月中旬までの発生予報と防除のポイント-

作況試験ほ: 大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報: 仙台管区気象台4月18日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオムギ赤かび病	早い	平年並

予報の根拠

- 作況試験ほにおける「大麦」の幼穂の生育が平年より進んでおり、「シュンライ」では、平年と比較して出穂期が10日、開花期は7日早いと予測され、「ミノムギ」では、出穂期が9日、開花期は7日早いと予測されている(表1)。(- /)
- 向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(- /)
- 開花期前後の降雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
コムギ赤かび病	やや早い	平年並

予報の根拠

- 作況試験ほにおける「小麦」の幼穂の生育が平年より進んでおり、「シラネコムギ」では、平年と比較して出穂期が4日、開花期が1日早いと予測され、「夏黄金」では、平年と比較して出穂期が7日、開花期が3日早いと予測される(表1)。(- /)
- 向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(- /)
- 開花期前後の降雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

表1 出穂期・開花期の予測

麦種	品種	幼穂長(mm)		出穂期(月/日)		開花期(月/日)	
		本年	平年	本年見込み	平年	本年見込み	平年
大麦	シュンライ	51.6	15.5	4/15	4/25	4/25	5/2
	ミノムギ	29.6	10.2	4/20	4/29	4/28	5/5
小麦	シラネコムギ	9.9	4.6	5/1	5/5	5/13	5/14
	夏黄金	12.2	5.7	4/29	5/6	5/11	5/14

※ 令和5年播種(令和6年産)麦類作況試験生育状況(出穂期及び開花期の本年見込みは4/10 現在の主茎幼穂長及び古川アメダスの平均気温の平年値を基に算出、古川農業試験場)

※ 播種時期: 令和5年10月中旬

※ 平年値は過去7か年の最高値と最低値を除いた5か年の平均値

※ 予報の根拠(発生時期/発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

・4月の高温の影響で麦類の生育が早まっている。薬剤防除の適期は、1回目が開花始期～開花期、2回目はその7～10日後である。生育状況をよく観察し、適期を逃さないよう防除を行う。

- ・「夏黄金」の薬剤防除は3回を基本とし、3回目は2回目の7～10 日後に実施する。
- ・「ホワイトファイバー」は「シュンライ」より出穂期が1～2日遅いので、1回目の防除のタイミングに注意する。
- ・赤かび病は開花期前後にかけて降雨が続くと発生が多くなるため、降雨が続く場合は晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

＜参考＞ 出穂期（出穂率 40～50%）から開花期に達するまでの日数の目安

日平均 気温(°C)	大 麦			小 麦		
	開花始	開花期	開花終期	開花始	開花期	開花終期
10	8	11	14	14	19	24
13	6	9	12	11	15	19
15	5	7	9	9	12	15
18	3	5	7	6	8	10

- ・普及に移す技術第 83 号参考資料「麦類の出穂期を基準とした開花期予測」参照

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20262/69869.pdf>

- ・大麦は「シュンライ」「ミノムギ」、小麦は「シラネコムギ」に適用

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和6年度 発生予察情報	発生予報第1号-りんご-	令和6年4月19日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	--------------------------

ー開花期～5月中旬の発生予報と防除のポイントー

巡回調査:3月5～6日

作況調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)

天候予報:仙台管区気象第4月18日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	早い	やや多

予報の根拠

- (1) 作況調査ほにおける「ふじ」の展葉期は、平年より8日早い(表1)。(- /)
- (2) 前年の発生量がやや多かったことから、伝染源量はやや多いと推測される。(/ +)
- (3) 向こう1か月の平均気温は高く(- / +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(± / ±)

病害虫名	発生時期	発生量
リンゴハダニ	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、短果枝における越冬卵数は平年並であった。(/ ±)
- (2) 向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

表1 りんごの生育状況(4月15日現在の作況調査データ)

品種	発芽期		展葉期		開花始		満開期		落花期	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
ふじ	3/25	3/30	4/3	4/11	—	4/27	—	5/3	—	5/10

※ 予報の根拠(発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・本年はりんごの生育が平年より早く推移しているため、生育ステージに注意する。
- ・作況調査ほ場における「ふじ」の展葉期は、平年に比べ8日早い。アルタナリア属菌の分生孢子飛散は、平年と同様に4月第1半旬から確認されている。防除適期を逃さないよう注意する。
- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は病害虫の発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・DMI剤(FRACコード:3)、QoI剤(FRACコード:11)及びSDHI剤(FRACコード:7)並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)斑点落葉病

- ・落花期頃にチウラム剤を散布する。赤星病、黒星病との同時防除を行う場合は、目的の病害に登録のあるDMI剤又はDMI混合剤を選択する。

(3)リンゴハダニ

- ・本種は短果枝の周辺や芽基部、小枝の分岐部など、しわ状の木肌部分で卵越冬する。越冬卵量が多い園地では、早期から寄生密度が高くなる傾向にあるので注意する。
- ・落花期は越冬卵から孵化した幼虫が出揃うので防除適期である。越冬卵の防除が不十分な場合は、この時期を狙って防除を行う。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和6年度 発生予察情報	発生予報第1号-なし-	令和6年4月 19日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	--------------------	---------------------------

ー開花期～5月中旬の発生予報と防除のポイントー

作況調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)

天候予報:仙台管区気象第4月 18日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	早い	平年並

予報の根拠

- (1) 作況調査ほ場の開花始は、平年に比べて「幸水」で6日、「豊水」で7日早い(表1)。(- / -)
- (2) 前年の発生量が平年より少なかったことから、伝染源量は少ないと推測される。(/ -)
- (3) 向こう1か月の平均気温は高く(-/+),降水量はほぼ平年並と予報されている。(± / ±)

表1 なしの生育状況(4月 15日現在の作況調査データ)

品種	発芽期		展葉期		開花始		満開期		落花期	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
幸水	3/31	4/2	4/14	4/20	4/17	4/23	-	4/26	-	5/5
豊水	3/30	4/1	4/12	4/16	4/14	4/21	-	4/24	-	5/3

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)黒星病

- ・開花期前後は特に重要な防除時期である。開花直前から落花期頃に DMI 剤またはその混合剤を十分量散布し、10日以上散布間隔をあけないようにする。
- ・作況調査ほ場の開花始は、平年に比べ「幸水」は6日、「豊水」は7日早い。子のう胞子の飛散は、過去3か年より遅い時期から確認されている。防除適期を逃さないよう注意する。
- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・薬剤耐性菌対策のため、FRAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。本県では現在まで DMI 剤(FRAC コード:3)、QoI 剤(FRAC コード:11)、SDHI 剤(FRAC コード:7)の耐性菌は確認されていないが、今後もこれらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とする。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/miyagi>

- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する
- ・芽基部の黒色すす状の病斑(写真)は本病の一次伝染源となることから、園内をこまめに見回り見つけ次第摘み取って園外に持ち出すか、土中深く埋めるなど適切に処分し、伝染源量を抑える。



写真 芽基部病斑
※りん片が脱落しにく
いので目印になる

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和6年度 発生予察情報	発生予報第1号-うめ-	令和6年4月19日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	--------------------	--------------------------

-5月中旬までの発生予報と防除のポイント-

巡回調査:4月12日～15日

天候予報:仙台管区気象第4月18日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
かいよう病	-	平年並

予報の根拠

- 巡回調査の結果、結果枝における発病が確認された(発病枝率0.67%)。(/+)
- 本病は気温12℃前後で降雨が多い場合に発病が多くなり、向こう1か月の平均気温は高く(/-)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	-	やや多

予報の根拠

- 本病は気温20℃前後で降雨が多い場合に発病が多くなり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は病害虫の発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・DMI剤(FRACコード:3)、QoI剤(FRACコード:11)及びSDHI剤(FRACコード:7)並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/novaku/user/top/miyagi>
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2) かいよう病

- ・第1次伝染源である潜伏越冬枝病斑を剪除する。
- ・生育期防除として抗生物質剤が有効である。ただし、使用時期(収穫前日数)に注意するとともに耐性菌が発生しやすいので注意する。
- ・発病部位が枝、葉、果実、花そうと多岐に及ぶので、薬剤は樹全体にムラがないように散布する。
- ・開花後、風を伴った降雨があると多発しやすいので、常発園や多発園では防風ネットなどの対策を行う。

(3)黒星病

- ・第1次伝染源である枝病斑を剪除する。
- ・果実での発病は5月以降にみられることが多いが、本病菌の潜伏期間は長いことから、5月前でも約2週間間隔で薬剤防除を実施する。
- ・本病は日照、通風不良園で発病が多いことから、整枝、剪定等により通風を改善する。

(4)アブラムシ類

- ・発生の多いほ場では、他の病害虫の発生状況も考慮して薬剤を選定して防除する。
- ・薬剤防除を行う場合は、枝の先端まで薬剤が行き渡るように散布する。

(5)コスカシバ

- ・幼虫の食入部位からは、虫糞が混じった赤褐色の樹脂が排出される。見つけ次第、幼虫加害部位を上から金槌等で叩いてつぶすか、被害部から針金を挿入して幼虫を刺殺する。
- ・樹勢が弱ると加害されやすいので、肥培管理につとめる。
- ・成虫の発生する5月までに交信攪乱剤を用いて成虫の産卵を阻害することも有効である。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—5月中旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:4月11、15日

天候予報:仙台管区気象台4月18日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 湿度45～85%が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- 薬剤防除は、罹病葉・発病果を取り除き、ほ場内の伝染源を減らしてから実施する。
- 肥料切れや樹勢の低下は発病を助長するため、適切に肥培管理を行う。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2) うどんこ病

- 多発してからの防除は困難なので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。

(3) べと病

- どの生育ステージでも発生し、一旦発病すると多発しやすいので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。
- 病原菌の侵入や蔓延には水分が必要であり、茎葉が繁茂して湿度が高まってくると発病しやすいので注意する。

(4)アブラムシ類

- ・モザイク病などのウイルス病を媒介するので、防虫ネット、紫外線除去フィルム、シルバーマルチ、粘着シート等の活用により、施設内への侵入を防止する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム